

【10】新たに追加したスペース

施設一体型校舎としたことで、新たに追加されたスペースや施設・設備は何ですか。(複数回答可)

- 1 小・中の児童生徒の異学年交流スペース
- 2 地域・保護者の方々の交流スペース
- 3 複合施設(複合施設名:地域開放プール、図書館など)
- 4 その他

(1)施設一体型校舎の小中連携、一貫教育校ごとの集計

- 新たに追加されたスペースや施設・設備については、小中一貫教育校、小中連携校ともに、「小・中の児童生徒の異学年交流スペース」、「地域・保護者の方々の交流スペース」の割合が大きい。

新たに追加したスペースについて、小中一貫教育校、小中連携校ごとの回答。

■小中一貫教育校(79校)

①	小・中児童生徒の異学年交流スペース	35校(44%)
②	地域・保護者の方々の交流スペース	17校(22%)
③	複合施設	8校(10%)
④	その他	14校(18%)

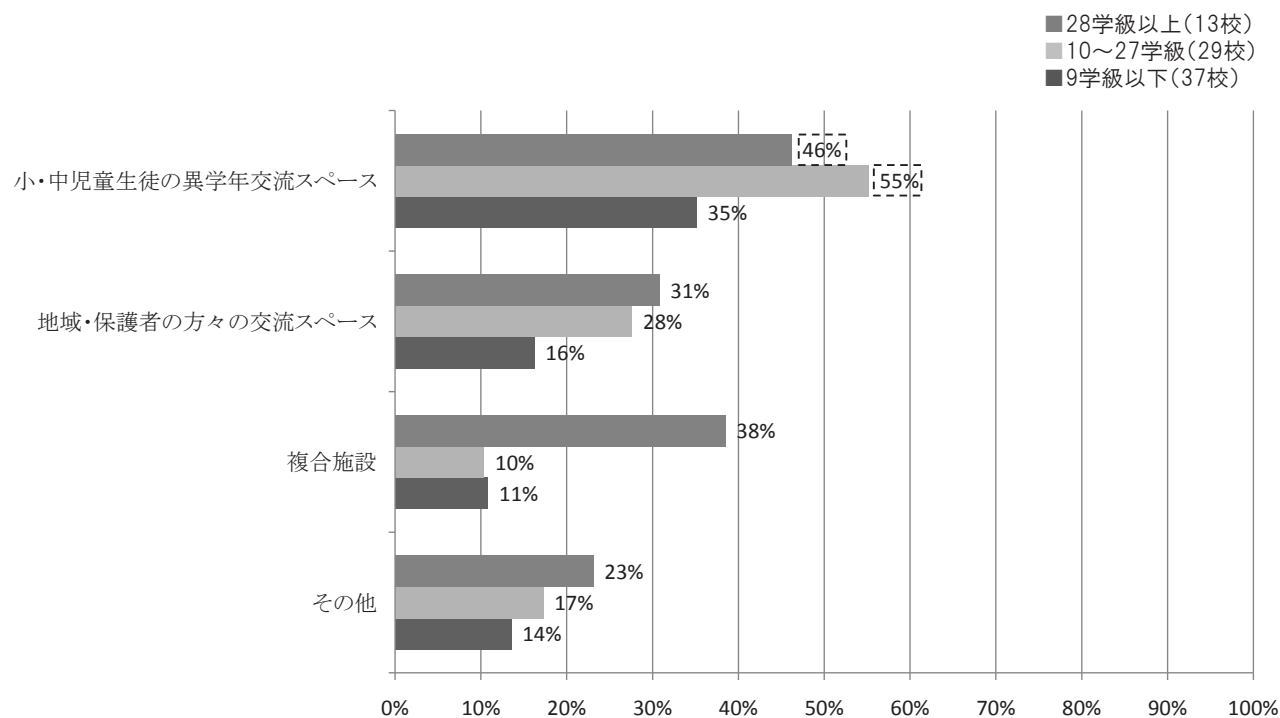
■小中連携校(52校)

①	小・中児童生徒の異学年交流スペース	13校(25%)
②	地域・保護者の方々の交流スペース	10校(19%)
③	複合施設	5校(10%)
④	その他	5校(10%)

(その他の内訳) 少人数教室、国際教育室、多目的スペース(兼 交流スペース)、教師ステーション、渡り廊下、通学バス転回広場 など

(2)施設一体型校舎の小中一貫教育校における学校規模ごとの集計

- 10～27学級及び28学級以上の学校では、「小・中児童生徒の異学年交流スペース」が約5割を占める。



(その他) 少人数教室、国際教育室、多目的スペース、教師ステーション、渡り廊下、通学バス転回広場 等

【11】特別支援学級(教室)の配置計画

特別支援学級(教室)は、どのように配置していますか。

- 1 学年ごと別の場所に配置
- 2 学年区分(ステージ)ごと別の場所に配置
- 3 小学校と中学校ごと別の場所に配置
- 4 9年間一貫して一か所に配置
- 5 その他

(1)施設一体型校舎の小中連携、一貫教育校ごとの集計

● 特別支援学級(教室)の配置については、小中一貫教育校、小中連携校ともに、「小学校と中学校ごと別の場所に配置」が最も多い。小中一貫教育校では「9年間一貫して一か所に配置」が20%を占める。

特別支援学級(教室)の配置計画について、小中一貫教育校、小中連携校ごとの上位の回答。

■小中一貫教育校(79校)

①	小学校と中学校ごと別の場所に配置	37校(47%)
②	9年間一貫して一か所に配置	16校(20%)
③	その他	11校(14%)

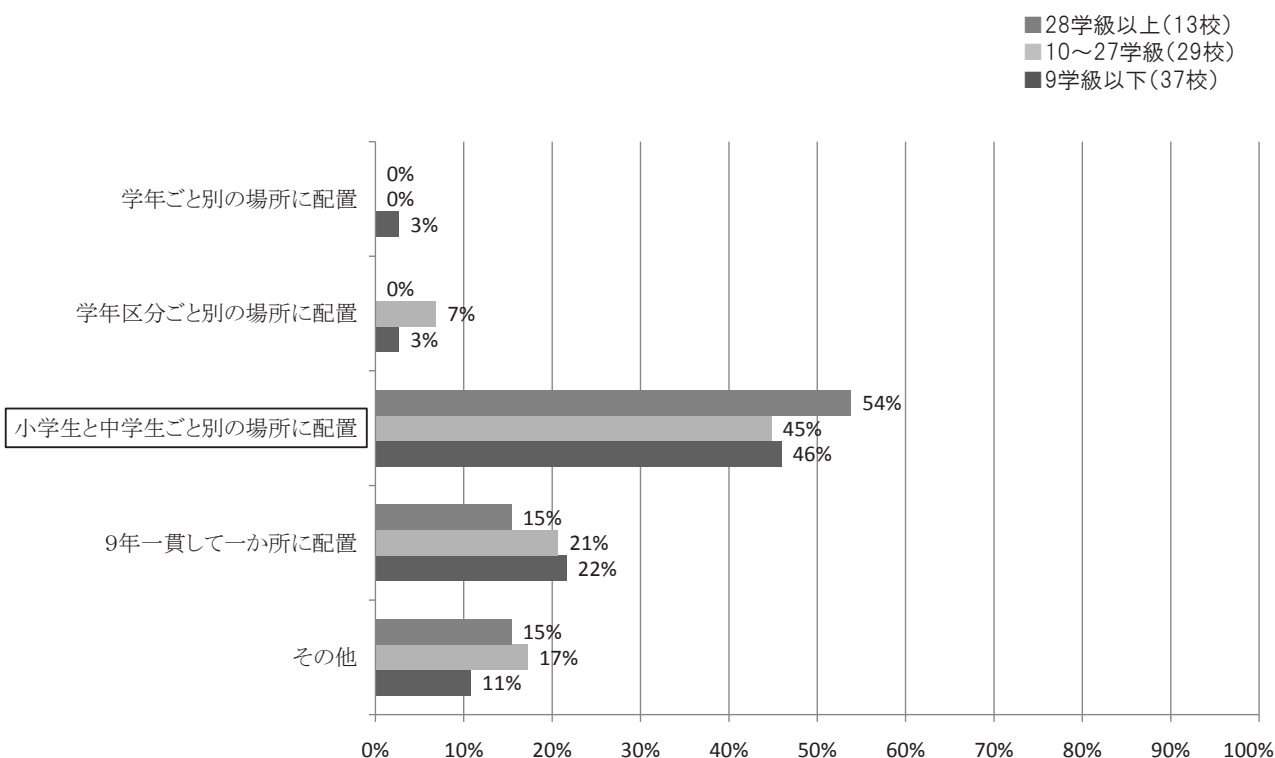
■小中連携校(52校)

①	小学校と中学校ごと別の場所に配置	36校(69%)
②	学年ごと別の場所に配置	4校(8%)
③	9年一貫して一か所に配置	2校(4%)

(その他の内訳) 障害種別に配置、小学校のみに配置、今は整備していない など

(2)施設一体型校舎の小中一貫教育校における学校規模ごとの集計

● 学校規模にかかわらず「小学校と中学校ごと別の場所の配置」が約5割を占める。



(その他) 障害種別に配置、小学校のみに配置、今は整備していない 等

【12】異学年交流を行う施設(室)

小・中異学年交流は、主にどの施設で行われますか。(複数回答可)

- 1 校長室 2 職員室 3 音楽教室 4 英語教室 5 理科教室 6 図工教室 7 技術教室
 8 家庭教室 9 図書室 10 ランチルーム 11 多目的教室 12 保健室 13 特別支援教室
 14 昇降口・玄関 15 多目的スペース 16 トイレ 17 体育館 18 グラウンド 19 プール
 20 地域連携室 21 教育相談室 22 視聴覚室 23 コンピュータ室
 24 複合施設(複合施設名:地域図書館、文化ホールなど) 25 その他

(1)施設一体型校舎の小中連携、一貫教育校ごとの集計

● 異学年交流を行う施設(室)については、小中一貫教育校、小中連携校ともに「体育館」、「グラウンド」が7割以上を占める。

異学年交流を行う施設(室)について、小中一貫教育校、小中連携校ごとの上位の回答。

■小中一貫教育校(79校)

① 体育館	64校(81%)
② グラウンド	57校(72%)
③ 多目的教室	35校(44%)
④ ランチルーム	33校(42%)
④ 多目的スペース	33校(42%)

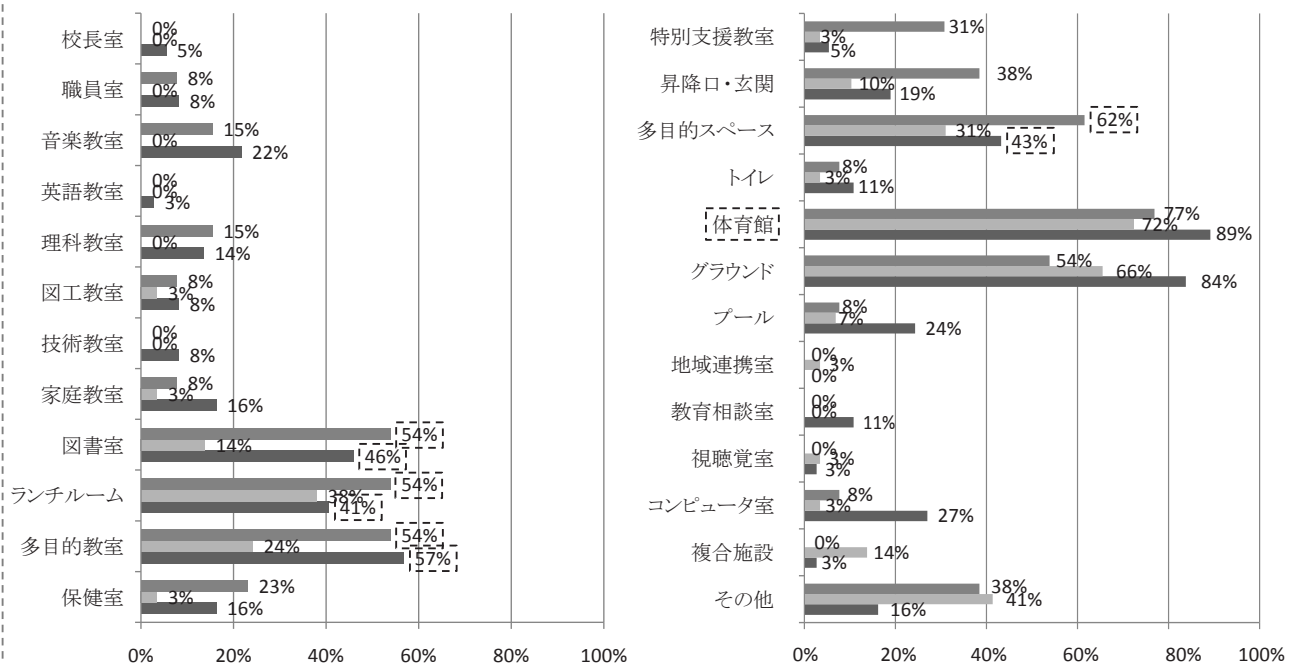
■小中連携校(52校)

① グラウンド	40校(77%)
② 体育館	39校(75%)
③ 図書室	19校(37%)
③ ランチルーム	19校(37%)
⑤ 多目的スペース	13校(25%)

(2)施設一体型校舎の小中一貫教育校における学校規模ごとの集計

● 学校規模のかかわらず「体育館」が7割以上を占める。10～27学級の学校を除き、9学級以下及び28学級以上の学校では「図書室」、「ランチルーム」、「多目的教室」、「多目的スペース」の割合が大きい。

■ 28学級以上(13校)
 ■ 10～27学級(29校)
 ■ 9学級以下(37校)



(その他) 普通教室、集会所、会議室、生徒会室、廊下 等

【13】 地域交流を行う施設(室)

地域・保護者の方々と児童生徒・教員等との交流、地域・保護者の方々同士の交流は、主にどの施設で行われていますか。(複数回答可)

- 1 校長室 2 職員室 3 音楽教室 4 英語教室 5 理科教室 6 図工教室 7 技術教室
 8 家庭教室 9 図書室 10 ランチルーム 11 多目的教室 12 保健室 13 特別支援教室
 14 昇降口・玄関 15 多目的スペース 16 体育館 17 グラウンド 18 プール 19 地域連携室
 20 教育相談室 21 視聴覚室 22 コンピュータ室 23 複合施設(複合施設名:地域図書館、文化ホールなど)
 24 その他

(1)施設一体型校舎の小中連携、一貫教育校ごとの集計

● 地域交流を行う施設(室)については、小中一貫教育校、小中連携校ともに「体育館」、「グラウンド」が概ね5割以上を占める。

地域交流を行う施設(室)について、小中一貫教育校、小中連携校ごとの上位の回答。

■小中一貫教育校(79校)

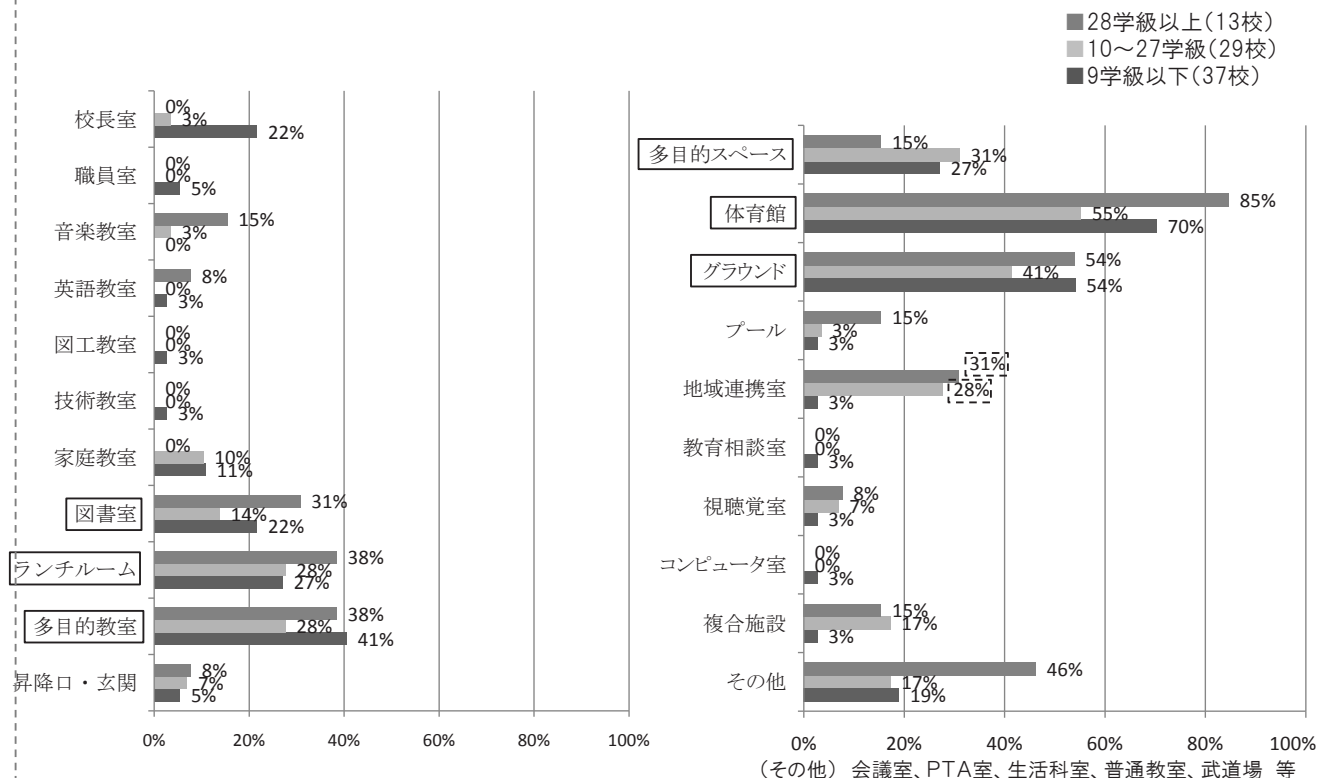
① 体育館	53校(67%)
② グラウンド	39校(49%)
③ 多目的教室	28校(35%)
④ ランチルーム	23校(29%)
⑤ 多目的スペース	21校(27%)

■小中連携校(52校)

① 体育館	33校(63%)
② グラウンド	26校(50%)
③ 多目的スペース	15校(29%)
④ ランチルーム	14校(27%)
④ 多目的教室	14校(27%)

(2)施設一体型校舎の小中一貫教育校における学校規模ごとの集計

● 学校規模のかかわらず「体育館」が概ね6割以上を占める。次いで「グラウンド」が概ね5割を占める。この他、「多目的教室」、「ランチルーム」、「多目的スペース」、「図書室」等の利用が見られる。「地域連携室」は、10～27学級及び28学級以上の学校において約3割を占める。



【14】職員室の座席配置

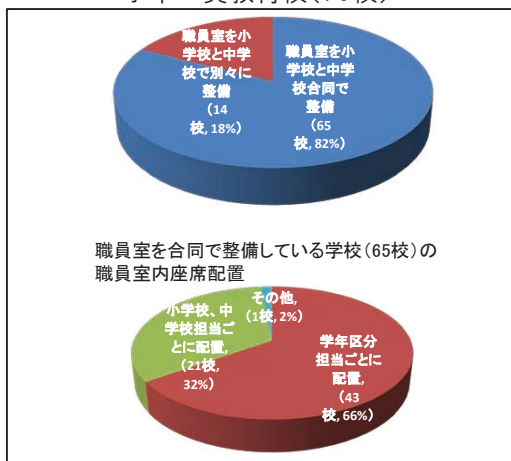
職員室の座席は、どのように配置していますか。

- 1 校務分掌をもとに配置
- 2 学年区分(ステージ)担当ごとに配置
- 3 小学校、中学校担当ごとに配置
- 4 教科担当ごとに配置
- 5 その他

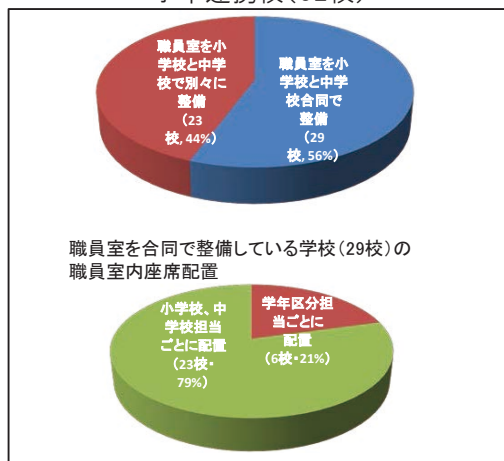
(1)施設一体型校舎の小中連携、一貫教育校ごとの集計

- 小中合同での整備状況について、小中一貫教育校では65校(82%)、小中連携校では29校(56%)である。
- このうち、職員室の座席配置について、小中一貫教育校では「学年区分担当ごとに配置」(66%)、「小・中担当ごとに配置」(32%)、小中連携校では「小・中担当ごとに配置」(79%)、「学年区分担当ごとに配置」(21%)である。

小中一貫教育校(79校)



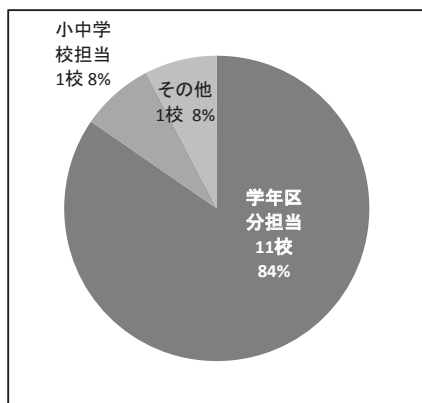
小中連携校(52校)



(2)施設一体型校舎の小中一貫教育校における学校規模ごとの集計

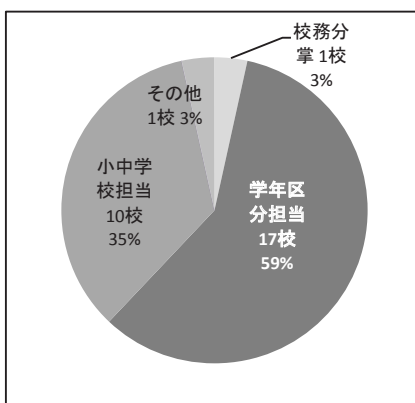
- 職員室の座席配置について、学校規模が大きくなるにつれて「学年区分担当」の割合が大きくなる。

28学級以上(13校)



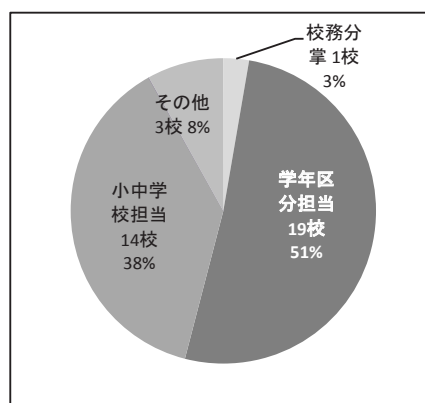
(その他)「小・中それぞれの職員室」

10~27学級(29校)



(その他)「小・中それぞれの職員室」

9学級以下(37校)



(その他)「小・中それぞれの職員室」3校

【15】施設一体型校舎の教育上の効果

施設一体型校舎としたことによる教育上の効果についてお答えください。(複数回答可)

- 1 不登校の増加や学力・学習意欲の低下など中一ギャップの減少
- 2 小・中の児童生徒の交流機会の増加
- 3 小・中の教員間の連携や交流の機会の増加
- 4 児童生徒の学習意欲の向上
- 5 その他

(1)施設一体型校舎の小中連携、一貫教育校ごとの集計

● 施設一体型校舎の教育上の効果については、小中一貫教育校、小中連携校ともに「小・中の児童生徒の交流機会の増加」、「小・中の教員間の連携や交流の機会の増加」が概ね9割以上を占める。特に、小中一貫教育校においては、「中1ギャップの減少」が約7割を占める。

教育上の効果について、小中一貫教育校、小中連携校ごとの回答。

■小中一貫教育校(79校)

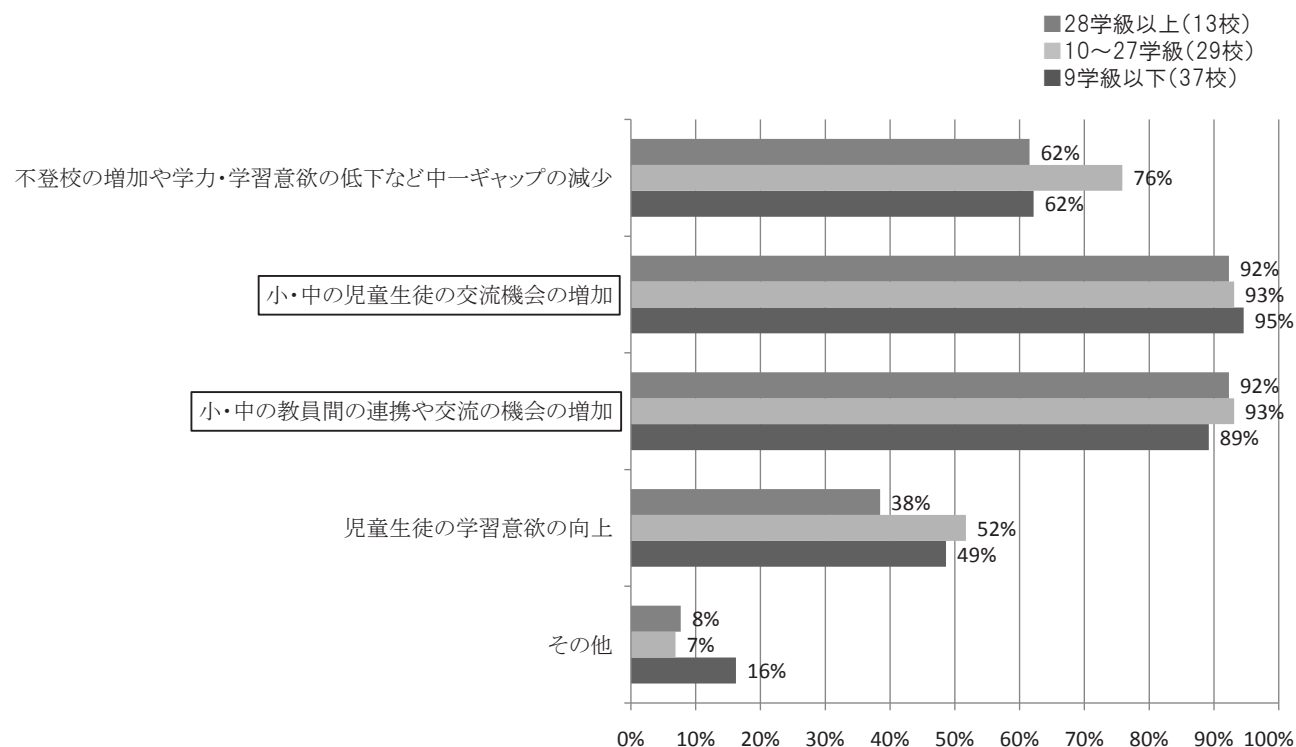
① 小・中の児童生徒の交流機会の増加	74校(94%)
② 小・中の教員間の連携・交流機会の増加	72校(91%)
③ 中1ギャップの減少	53校(67%)
④ 児童生徒の学習意欲の向上	38校(49%)
⑤ その他	9校(11%)

■小中連携校(52校)

① 小・中の教員間の連携・交流機会の増加	50校(96%)
② 小・中の児童生徒の交流機会の増加	46校(88%)
③ 中1ギャップの減少	29校(56%)
④ 児童生徒の学習意欲の向上	17校(33%)
⑤ その他	5校(10%)

(2)施設一体型校舎の小中一貫教育校における学校規模ごとの集計

● 教育上の効果について、学校規模にかかわらず「小・中の児童生徒の交流機会の増加」、「小・中の教員間の連携や交流の機会の増加」の割合が約9割を占める。



(その他) 指導力向上、教職員の他校種への理解向上、子供の心情面での成長等

【16】施設一体型校舎における運営面での工夫

施設一体型校舎としたことにより、新たな組織の立ち上げや学校間の連携を行うコーディネーターの配置など運営面で工夫された点がありましたらお答えください。また、校内でどのような推進体制を採っているか図示してください。(記述式)

■小中一貫教育校 (回答:53校)

【推進体制】

- ・小中一貫教育推進委員会の開催、校長一人制に伴う総括的教頭の配置等
- ・校長1名の下、教頭3名が連携を取りながら小中各々の在籍校に関係なく柔軟に対応
- ・課題に応じたプロジェクト組織の設置
- ・小中のつなぎ役として総括教頭の配置
- ・小中各教務主任がコーディネーターを担っている

【校務分掌】

- ・校務分掌を小中合同で作成し、一つの分掌に小中両方の教員を配置
- ・教務部・研究進路部・生徒指導部等を全て小中共通の分掌とし、小中両方の教員が所属
- ・職員室、保健室の機能の一本化、教務主任、研究主任の連携、研究部会の一元化

【その他】

- ・校長が一人であり、学校方針が統一されている。また職員室が同じであることで連携がスムーズに行える
- ・PTAや学校評議員などを小中一本化している

■小中連携校 (回答:19校)

【推進体制】

- ・小中連携運営委員会の設置
- ・教務主任がコーディネーターの役割を果たしている
- ・小中全ての教員に兼務発令を行った

【校務分掌】

- ・小中合同の部会を組織して共通理解を図りながら連携

【その他】

- ・PTA組織を小中学校一体化

【17】部活動の円滑な実施のための施設面での工夫

部活動を円滑に行うため、体育館やグラウンド等の整備において工夫した点がありましたら、ご記入ください。(記入例:時間割の上ではグラウンドを共有化できたが、部活動を考慮し、小グラウンドを整備した など)(記述式)

■小中一貫教育校 (回答:47校)

【体育施設の整備】

- ・小学校用の野球場と200mトラックを新たに整備
- ・体育館を共有化することを検討したが、中学校の部活動を考慮して新たに小学校用の体育館を整備

【体育設備の整備】

- ・体育館を分割して利用するため、間仕切りネットを設置
- ・既存の体育館を利用するため、可動式のバスケットゴールを設置

【地域施設の利用】

- ・町の体育館を校舎と接続し、中学校の体育の授業、小中の部活動で使用

【第二グラウンド等の整備】

- ・時間割の上ではグラウンドを共有化できたが、部活動を考慮して小グラウンドを整備
- ・放課後は中学生の部活動のため、小学校体育館を開放
- ・屋内運動場内にサブスペースを設置
- ・第二グラウンドにおいて、野球場やテニスコートを整備
- ・体育館、グラウンド、プールは、旧中学校の施設を使用
- ・狭隘な敷地に対応するため、体育館上部に人工地盤の運動場を整備するとともに、旧小学校跡地に第二グラウンドを整備

■小中連携校 (回答:17校)

【体育施設の整備】

- ・小学校と中学校のグラウンドを別々に整備
- ・中学校の整備に伴い、小学校グラウンドを拡張
- ・時間割の上ではグラウンドを共有化できたが、部活動を考慮して小グラウンドを整備

【体育設備の整備】

- ・体育館を分割して利用するため、間仕切りネットを設置

【地域施設の利用】

- ・地域の体育館、グラウンドを使用

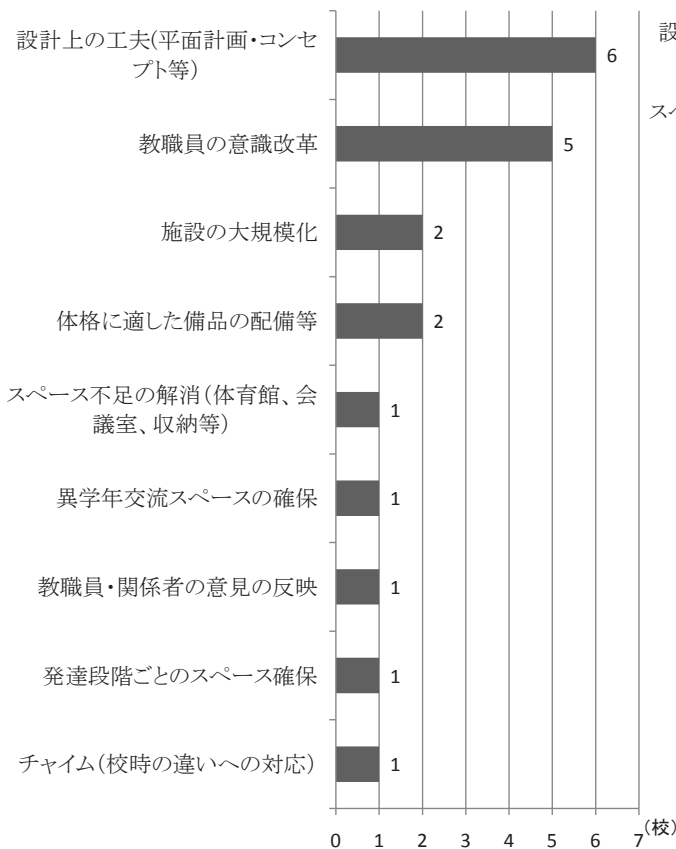
【第二グラウンド等の整備】

- ・校舎は一体型で建設したが、体育館及びグラウンドは、既存の施設を利用
- ・部活動を考慮して中学校武道場屋上にテニスコートを整備

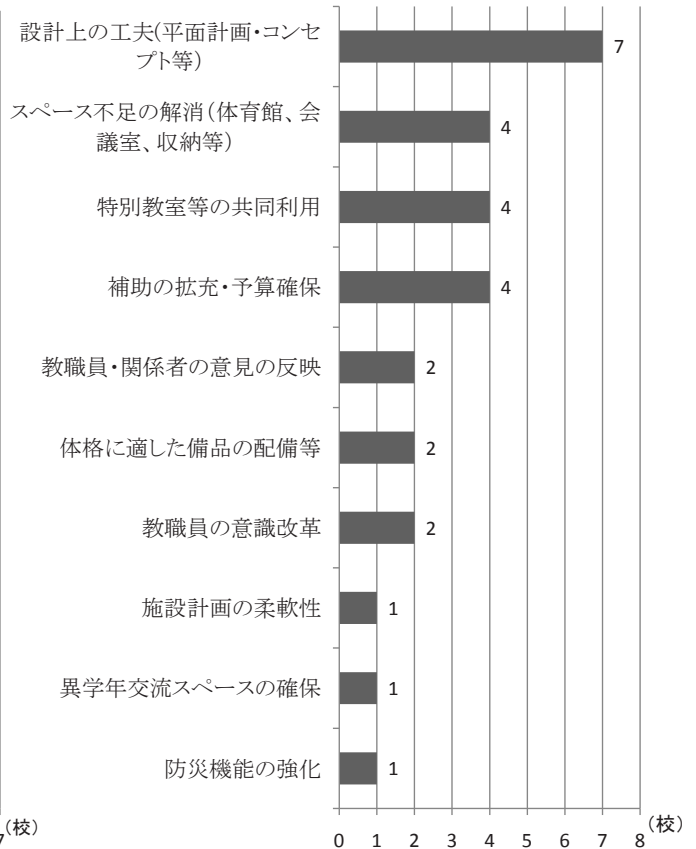
【18】 今後の施設一体型校舎を整備する際の課題(自由記述)

(※記述内容を項目ごとに分類・集計)

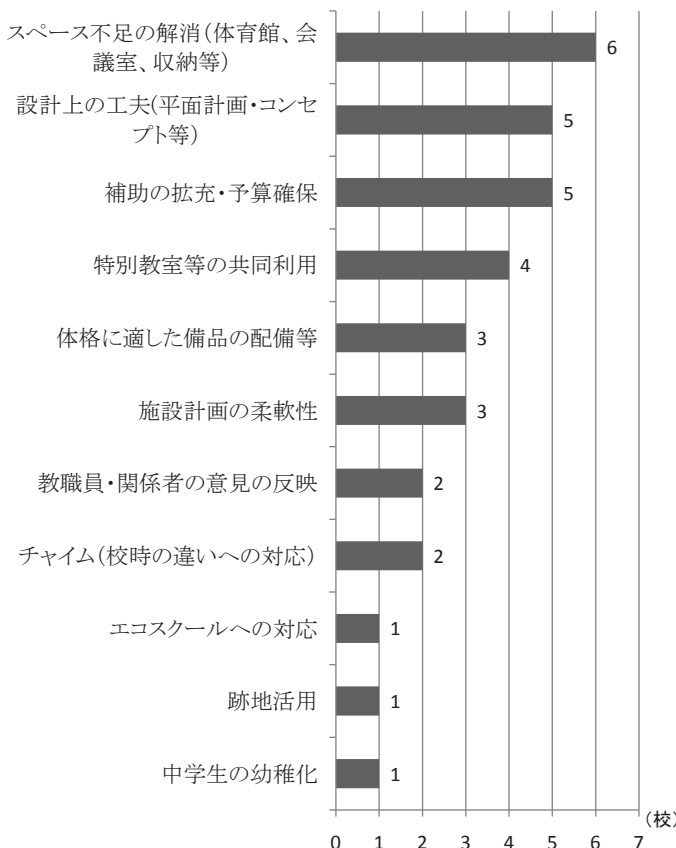
28学級以上(13校中回答のあった13校)



10~27学級(29校中回答のあった22校)



9学級以下(37校中回答のあった27校)



回答の多い項目の記述内容

○設計上の工夫(平面計画・コンセプト等)

- ・学年区分を意識できる教室配置にすべき
- ・学年間の風通しがよくなるよう教室を配置すべき
- ・小中の違いへの配慮が必要(トイレの場所等)
- ・授業時間差により混乱が生じない動線計画の設定
- ・9年間の教育理念実現のための施設にすべき 等

○スペース不足の解消(体育館、会議室、収納等)

- ・小中で一つの特別教室を利用するため、教材等の備品保管スペースの確保が必要
- ・職員室に話し合いのできるスペースが必要
- ・指導内容について打合せを行う会議室等の確保
- ・中学生のクラブ活動により、小学生が放課後に体育館を使えない 等

○体格に適した備品の配備等

- ・黒板の高さなど、児童生徒の成長に対応した設備
- ・手洗いシンクやロッカーの高さなど、それぞれの学年区分に応じた設備の配備 等

【参考】 小中一貫教育における校舎の設置状況の分類

区分	校舎の設置状況
<p>① 【いわゆる施設一体型校舎】</p> <p>小学校と中学校の校舎の全部又は一部が一体的に設置されている (小学校と中学校の校舎が渡り廊下等でつながっているものを含む)</p>	<p>(イメージ)</p> <p>全部一体的に設置 (同一敷地) 一部一体的に設置 (同一敷地) 全部一体的に設置 (同一敷地、渡り廊下で接続) 全部一体的に設置 (異なる敷地、渡り廊下で接続) 全部一体的に設置 (本校舎・分校舎を設置) 一部一体的に設置 (異なる敷地、渡り廊下で接続) 一部一体的に設置 (同一敷地) 一部一体的に設置 (異なる敷地)</p>
<p>② 【いわゆる施設隣接型校舎】</p> <p>小学校と中学校の校舎が同一敷地又は隣接する敷地に別々に設置されている</p>	<p>(イメージ)</p> <p>別々に設置 (同一敷地) 別々に設置 (隣接する敷地)</p>
<p>③ 【いわゆる施設分離型校舎】</p> <p>小学校と中学校の校舎が隣接していない異なる敷地に別々に設置されている</p>	<p>(イメージ)</p> <p>別々に設置 (隣接していない異なる敷地) 別々に設置 (隣接していない異なる敷地)</p>
<p>④ その他</p> <p>施設一体型校舎と施設分離型校舎が併存している場合など</p>	<p>(イメージ)</p> <p>[施設一体型校舎] 別々に設置 (隣接していない異なる敷地) [施設一体型校舎] 別々に設置 (隣接していない異なる敷地) [施設隣接型校舎] 別々に設置 (隣接していない異なる敷地)</p>

注) □は校舎を、■は敷地を示す。

※ 本資料は、「小中一貫教育等についての実態調査」において施設形態を分類するために校舎の設置状況を整理したもの。